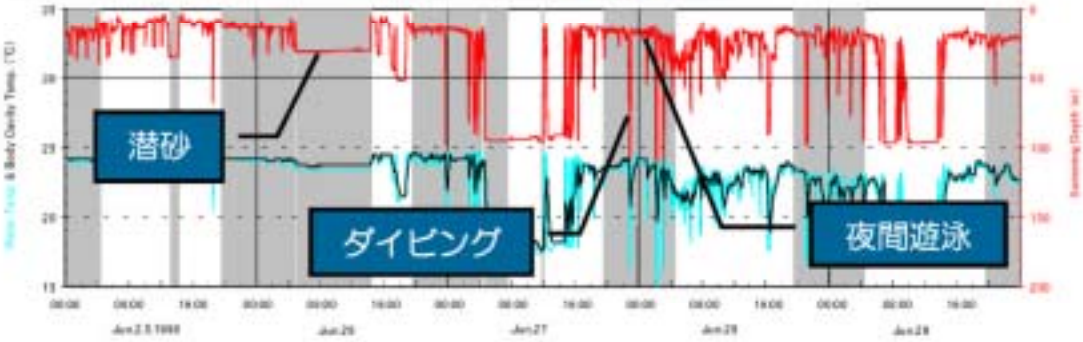
トラフグに関する研究

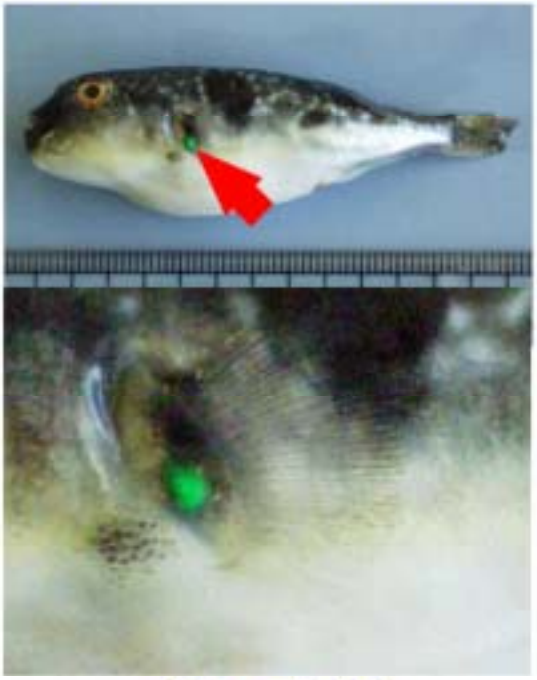
資源調査では、平成11年度に三重，愛知，静岡の三県フグ延縄漁業者が策定したトラフグ延縄漁業の管理計画がより一層の効果を高めるための必要な調査を行っています。具体的には延縄漁業の操業実態の把握や，記録式タグ（アーカイバルタグ）を用いた標識放流実験を実施しています。アーカイバルタグは約２分毎の魚の遊泳水深や水温などが記録でき，移動生態を把握することが可能です。これまでの結果から、漁期中の移動や海底に潜ることや水深数メートルから数十メートルまで急激に潜水浮上することなど興味深い行動が確認されました。

アーカイバルタグ
(本体は腹部に入っている。矢印はセンサー)



アーカイバルタグから得られた記録
(赤色折れ線は遊泳水深，青色折れ線は水温，灰色帯は夜又は潜砂を示す)

またトラフグは盛んに放流が行われている魚種であり，放流したフグに関する調査研究も行われています。過去には健全な種苗の育成のための研究が行われていましたが，近年では、適正な放流場所・放流サイズの検討や精度の高い回収率の算出などに重点をおいています。平成 12 年度からは愛知，静岡の水産試験場と連携をとり，各海域における放流効果の向上や把握を目的としたイラストマー標識という新しい標識を使った標識放流を行います。平成 12 年度は東海三県で色を分けて合計約 15 万尾の放流を行いました。その結果，伊勢湾のある港では約 1 割のトラフグがイラストマー標識魚でした。将来は，どこにどのサイズで放流すれば更に効果が得られるかを明らかにします。



イラストマー標識
(左胸鰭基部，蛍光緑)